

中心市街地循環型交通の導入と利用促進による効果検証

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 正会員 ○野谷 将準
 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 非会員 森本 佐理
 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 非会員 山口 欽

1. 目的

高松市の丸亀町商店街においては「人が住み、人が集うまち」をコンセプトに商店街の活性化だけでなく、市街地再開発事業など中心市街地の夜間人口の増加などにも取り組んでいます。一方、丸亀町商店街は、車社会への対応として駐車場整備を進めてきましたが、近年は極度な車依存社会から公共交通も利用できる環境を整えるため、高松市が平成13年から平成15年まで試験運行した「市街地循環バス」を引き継ぎ、丸亀町商店街で独自事業として市街地循環バスを運行に乗り出しました。その後、路線バスが放射状路線を形成しているため、中心市街地を東西に結ぶ路線がほとんどないため、平成28年10月より「まちなかループバス」と改名して中心市街地を東西に循環する交通として運行区域を拡大しました。

本稿では、中心市街地を東西に結ぶ「まちなかループバス」の運行ルート上における特定の地区への情報提供を行うことで、バスの利用促進効果の調査・分析を基に今後の事業展開について論じます。

2. 商店街利用者調査によるまちなかループバスの認知度、今後の課題

まちなかループバスは、中心市街地を運行することで地域住民が移動しやすくなり、外出機会を増やすことで、商店街などでの消費も増やしていただくことが目的です。そのため、商店街の利用者に対して、まちなかループバスについてアンケートを実施しました。

調査結果では、7カ月前と比べて認知度は77.4%と9.9ポイント上昇した。利用においては、知っている人の50%が利用しているが、残りの50%は利用しておらず、その要因として運行を知っているが、利用するための時刻や自宅及び目的地の最寄りのバス停を知らない状況であることが分かった。認知度の向上と利用するための情報を提供することで、利用ありと同等程度の割合で利用意向があることから、これらの潜在需要を掘り起こすことが今後の課題と認識されました。

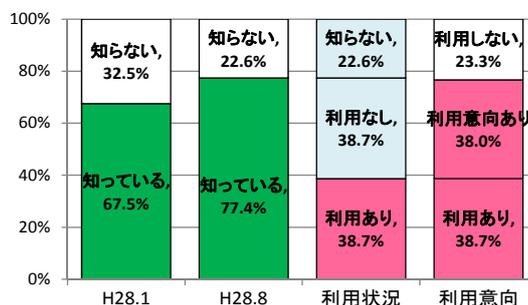


図1 認知度の推移・利用状況と意向

3. 認知度向上と利用促進のための情報提供方法

まちなかループバスの利用促進を行うため、認知度の向上と利用するための情報提供を行うことが求められる。情報提供においては、どこで情報提供するのかという「場所」、どんな手段で情報を提供するのかという「情報媒体」を選定して実施するが、それには現状の利用者属性を考慮する必要があります。現状の利用者属性は、60歳以上が54%と過半数以上を占めるため、利用者のメインターゲットは60歳以上と言えます。残る約半数の様々な年代層へも訴求が求められるため、ターゲットを分けて利用促進の方策を実施することとしました。

60歳以上は、自宅(③出発地)に時刻表などバス情報と沿線の医療施設、商業施設、公共施設等の沿線情報(①紙媒体)で情報提供を行うこととした。また、配布区域を限定して効果計測ができるように工夫を行いました。残る60歳未満の各年代層に対しては、香川大学の学生と連携して「まち歩きマップ」(①紙媒体)を作成することで、TV、新聞(④メディア)への露出、商店街ホームページへの掲載(③電子媒体)と各年代層に様々な媒体を通じて訴求できる方法により情報提供を行うこととしました。

図2 情報提供の整理とターゲット別の情報提供

場所	情報媒体		ターゲット	場所	情報媒体
①目的地(商業施設等)	①紙媒体	チラシ、フリーペーパー、本	60歳以上	③	①
②交通結節点(駅等)	②施設掲示物	案内サイン、屋外広告、電子看板	60歳未満	④	①+③、④
③出発地(自宅等)	③電子媒体	HP、メール、SNS			
④場所性がない	④メディア	TV、ラジオ			

4. 利用促進による効果検証

(1) バス情報と沿線情報をチラシにより提供する利用促進策

利用促進の効果については、限定した配布区域に、バス路線と時刻表のチラシと沿道施設の情報チラシを作成し、自宅へのポスティングを3ヶ月間に4回実施しました。効果としては、993人/月で年間換算149万円の収入増であり、費用対効果で見ても1.67と良好な結果となりました。また、商店街への波及効果においても260万円の消費額増加が期待されます。(調査結果に基づき、利用回数2.3回/週、消費額5,711円)

今後、効果的に利用促進を行うためには、今回のチラシによる情報提供が有効な地区特性を分析し、その結果から効果の高い地区から利用促進を行うことが有効的です。そのため、各バス停における利用者数の増減と各バス停圏の地区特性である高齢化率、後期高齢化率、バス利用率、目的地への所要時間に相関関係を検証しました。扇町バス停圏は、高齢者数が多く、高齢化率も高く、目的地までの所要時間が長く、バス利用率が低い地区であったため、情報提供により効果が認められたと考えられます。一方で、八幡前バス停圏は、高齢者数が多く、高齢化率も高く、目的地までの所要時間が長いものの、バス利用率が高かったことから効果が発現しにくかったのかと推定されます。しかし、昭和町・市図書館前バス停なども条件としては効果発現の可能性が高いと想定されるが、増加しているものの十分な効果が得られているとは言い難いため、地区特性と利用促進効果との因子が何を大きく影響しているのかが結論が出ない結果となりました。今後は、年齢や利用率、所要時間以外にも影響が考えられる因子を検討し、更なる分析を行い、効果的な利用促進が図れるようにしていく必要があります。

	配布による利用者数の増減率(10%増が○、10%減が×、それ以外△)										年齢構成の人数・割合				バス利用率	目的地所要時間					
	配布前	1回目	2回目	3回目	4回目	前半のみ	全期間	65歳以上	75歳以上	バス	徒歩	時間差									
県庁・日赤前	1	○	1.18	△	0.95	△	0.95	○	1.25	○	1.12	△	1.09	230	27%	124	14%	3.4			0.0
八本松	1	○	1.45	×	0.7	×	0.81	○	1.19	○	1.12	△	1.07	364	26%	197	14%	0.5	18.3	48.8	30.5
亀阜小学校前	1	○	1.19	○	1.11	△	1.03	△	1.03	○	1.17	△	1.08	228	29%	127	16%	0.9	8.0	32.5	24.5
八幡前	1	△	1.01	×	0.71	△	1.01	△	1.02	△	0.93	△	0.98	309	32%	170	17%	4.0	17.5	54.8	37.3
市民病院	1	○	1.16	○	1.27	△	0.96	○	1.24	○	1.19	○	1.12	284	31%	154	17%	6.9			0.0
香川大学法学部・経済学部前	1	○	1.14	×	0.89	○	1.18	△	1.04	△	1.07	○	1.10	180	27%	91	14%	1.1	23.5	44.3	20.8
香川大学教育学部前	1	○	1.12	×	0.7	△	0.92	△	0.96	△	1.01	△	0.98	180	27%	98	15%	2.2	21.4	39.9	18.5
昭和町・市図書館前	1	△	1.01	△	1.08	△	1.05	△	1.04	△	1.03	△	1.04	375	24%	214	14%	1.2	26.4	41.4	15.0
扇町	1	○	1.17	○	1.14	○	1.13	○	1.2	○	1.16	○	1.16	356	31%	187	16%	1.1	26.4	52.6	26.2

図3 利用者数の増減率と地区属性との相関関係

(2) 香川大学の学生と連携した「まち歩きマップ」による利用促進策

香川大学の学生と連携して作成した「まち歩きマップ」は、配布による利用者数への効果計測が難しいことから実施していないものの、配布イベントを行ったことで、テレビ局では137秒間の放送や、新聞社による記事など多くのメディアに取り上げられたことから認知度向上に寄与しています。この「まち歩きマップ」はバス運行区域を複数のエリアに分けて順次、発行していくものであるため、継続的な情報発信を行うことを計画しています。また、「まちなかループバス」は主に生活における移動手段として利用されていますが、このマップにより観光的な利用が促進されることで、利用が減少する土日など休日の利用増加が期待されます。

5. 今後の展開

今後の展開は、利用者の満足度向上が重要と考えているため、利用者ニーズにおいて最も要望が高かった「運行密度の向上」を図ることが最重要課題と言えます。この課題の解決は運行ルート上の施設移転が移転する2年後を目標と設定し、実現に向けた2つの問題の解消を図ります。1つ目は、車両や運転手の確保など実務的な課題があるが、これは高松市の公共交通網形成計画に基づく再編により高松市全体のバスネットワークの中で解決を図るものと考えます。もう1つは、まちなかループバスの黒字化の課題で、現状の運行距離当たり利用者数21.5人/kmが運行密度の向上により利用者増加を見込んでも、黒字化するためには4.3人/km不足することが想定されます。そのため、現在の運行において利用者数の底上げを図ることが必要であり、その手段として今後も情報提供やマップ発行など利用促進策を効率的に実施していくとともに、地域で愛されるバスとなり、運行ルート上の各種事業者との連携により新たな収入源を確保するなど多面的な取り組みを進めます。